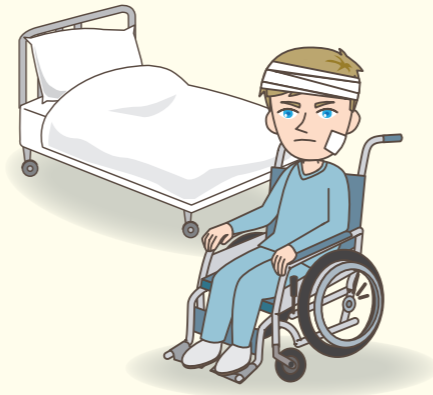


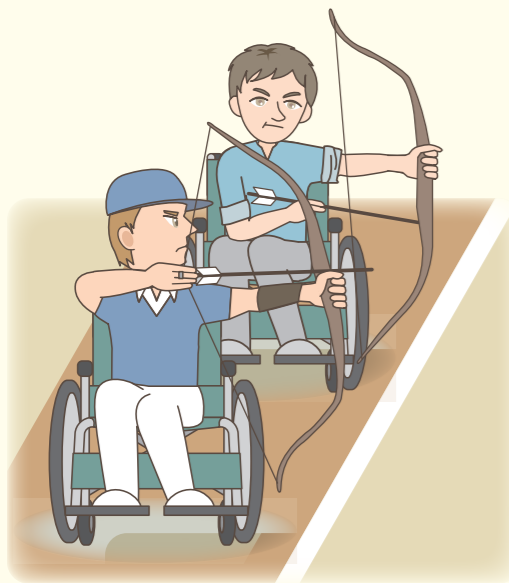
パラリンピックのはじまり

イギリスのロンドン郊外にあったストーク・マンデビル病院の医師をしていた、ルートヴィヒ・グットマン博士は、第二次世界大戦で脊椎を負傷した兵士のリハビリと社会復帰のため、スポーツを治療に取り入れました。



パラリンピックの起源は 病院内のアーチェリー大会

1948 (昭和23) 年、グットマン博士はロンドンオリンピックの開会式にあわせ、車いす患者16名によるアーチェリー大会を病院内で開催しました。



この大会がパラリンピックへ
成長するんじや



パラリンピックという名前前の意味は?

当初、大会に参加する選手が下半身麻痺のある人だったことから「paraplegia (パラプレジア：対まひ者)」と「Olympic (オリンピック)」を合わせて「パラリンピック」と名付けました。その後、下半身麻痺の選手だけでなく、障がい者の国際スポーツ大会に相応しい、オリンピック同様の大会という意味で「parallel (パラレル：類似した、平行した)」へ変更されました。

parallel (パラレル：類似した、平行した) + Olympic (オリンピック) → paralympic (パラリンピック)

日本でパラリンピック開催を提唱したひとりの医師

日本パラリンピックの父 中村裕医師のお話



グットマン博士から学んだ信念 「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」

大分県で医師をしていた中村裕氏は、1960 (昭和35) 年に留学先でグットマン博士と出会いました。博士の患者の多くが半年ほどで社会復帰を果たし、自分たちの生活へと戻っていく姿に衝撃を受けました。



グットマン博士と中村医師



この時はまだ「リハビリ」という
言葉もなかった時代なんじや

当時の日本の障がい者の治療は、安静が中心だったため「障がい者にスポーツをさせる」という考えは受け入れられず「障がい者を人前に出すなんて」「スポーツで悪化したらどうするんだ」など、大きな批判を受けました。しかし、中村医師は諦めず、障がい者のスポーツ参加に尽力しました。

1964 (昭和 39) 年の
東京オリンピックの後に
開催された東京パラリンピックが
はじめての国際大会だったんじやよ



次は中村医師が創立した
「太陽の家」について
話そうかのう